

【復興支援道路】一般国道281号案内工区が開通！

県北広域振興局土木部

11月19日（日）、県が「復興支援道路」として整備を進めてきた一般国道281号案内工区（L=2.1km）が開通しました。

当日は時折雪が降るあいにくの天候でしたが、遠藤久慈市長、八重樫県北広域振興局長、県議会議員、久慈市議会議員、地権者、久慈市立山形小学校、久慈市立山形中学校の皆さまなど約60人出席のもと、開通式を開催しました。

式典では、主催者による式辞や来賓による祝辞、久慈市立山形中学校2年生18名によるよさこいソーランの披露等が行われました。



八重樫県北広域振興局長 式辞



遠藤久慈市長 祝辞



地域住民や関係者の手による
テープカット、くす玉開き



久慈市立山形中学校2年生による
「よさこいソーラン」披露



高橋県北広域振興局土木部長
事業経過報告



パトカー先導によるパレード

● 道路開通により期待される整備効果

一般国道281号は、盛岡市から岩手町、葛巻町を經由し久慈市に至る広域的な幹線道路であり、地域住民の日常生活や産業を支える路線であるとともに、緊急輸送道路の第1次路線に指定されるなど重要な役割を担っています。道路の改良整備により、次のような効果が期待されます。

効果1 安全で信頼性の高い道路ネットワークの形成

この路線は、東日本大震災津波が発生した際、救急救命活動や救援物資輸送など緊急輸送道路として重要な役割を果たしたことを踏まえ、県の復興計画において復興支援道路と位置付けられています。

今回の整備により、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークの強化が図られます。

効果2 安全・安心な通行の確保

当該区間は、急カーブが9箇所連続し、道路幅員は7.0mと狭小で、円滑な除雪に必要なスペースとなる堆雪帯が確保されていないことから、特に冬期間の通行に支障をきたしていました。

今回の整備により、急カーブが解消され幅員が堆雪帯含め9.0mに拡幅されたことにより見通しや走行性が大幅に向上するほか、落石等への対策が必要とされていた法面8箇所を回避したことにより、より安全で安心な通行が確保されます。

また、1kmの距離短縮(3.1km⇒2.1km)と急カーブの解消等により、約2分の移動時間短縮が見込まれます。

効果3 重要港湾久慈港や救急医療施設へのアクセス向上

重要港湾久慈港と内陸部を結ぶ物流ルートとしてアクセス性が向上し、物流の効率化が期待されます。

また、救命救急センターに指定されている県立久慈病院への主要な搬送ルートとして、患者負担が軽減し、医療施設への安定搬送が図られます。

事業概要図

